

平塚柔道物語 50

努力の勝利

平塚柔道協会 会長 奥山晴治

平成23年7月29日、全国大会中学校県予選（個人戦）の日、柔道教師の真田州二郎は、出場選手の三年生全員に激励の手紙を書いた。それは、当日仕事で朝から試合を見ることが出来なかったからである。その結果、6人の生徒が優勝し、全国大会の切符を手にしたのであった。その中の一人を紹介したい。女子48kg級の鈴木はるか選手である。彼女は市大会でも負けていた。その彼女にあてた手紙には、次のように記してあった。

「お前ほど努力して真面目に頑張ってきた生徒はいない。俺の教え子の中でもダントツに練習をし、頑張ってきた。お前以上に努力している選手は、日本中にいない。世界中にもいない。お前は努力の世界チャンピオンだ。はるかの良さは、相手の動きをよく観察し、足技を出しながら組み手を行うこと。奥襟は必ず落とし釣り手を振っていくこと。柔道の神様がいたら、必ず今日は優勝できる。誰よりもチームを愛し、励まし、支えてくれたお前に心から感謝します。今日は一日中そばにいてあげたいけど心は一つ。はるかの勝利を信じます。一番の敵は自分自身の弱気、弱気な自分を吹き飛ばす気迫ある試合をしろよ。必ず勝てる。やれる。お前が最強だ。不可能なんて無い。自分がやってきたことを信じる。努力は報われる。神様はいるぞ!!」彼女はその手紙を見て泣いた。そして先生の期待に応えようと心から思った。

一回戦は抑え込みで、二回戦は背負投げで一本勝ち。準決勝は強敵、相原中学校の選手であったが、判定で勝利。最後の決勝戦では、何と抑え込みで一本勝ちをし、彼女は優勝したのである。私をはじめ、誰もが驚いた。

県大会終了後、教師の真田は皆を前にして話す。「今日優勝して全国大会出場を決めた選手の中に、俺に『努力は嘘をつかない』ということについて教えてくれた者がいる。俺は今まで『努力は嘘をつかない』という言葉をよく話して来

たが、柔道の世界では努力しても必ず結果に結びつくとは限らない。努力した者が皆勝てるなら、皆全国大会へ行けるはずだ。だからその言葉の解釈として『自分のしてきた努力は、必ず自分の自信となって戻ってくる』という風に教えて来た。ところが今日は本来の意味どおり、努力で優勝を勝ち取った者がいた。はるかだ。はるかはこれまで努力してもなかなか勝てなかった。試合後の反省ノートには何ページにも渡り自分の柔道を振り返り、どうしたら勝てるか、強くなれるか、誰よりも悩み、苦しんできた。そして最後の試合で大きな花を咲かせて見せてくれた。俺ははるかから柔道の世界においても、努力=結果があるのだということを教えてもらった」と皆に語ったのである。

教師の真田は各部員たちに、試合の度に柔道ノートを用意させ、終わると自分の試合を振り返り、どこが悪かったのか、どうすればよかったのかを書かせていたのである。さらに一人一人のノートを真田は丁寧にチェックし、自分のアドバイスを書いていった。真田は、はるかが翌年、卒業する時の柔道卒業証書の中に「彼女の柔道ノートは一試合でノート1ページ以上に書き、練習後は必ず、自主練習を行って、誰よりも努力していた」と書いている。

教師も生徒もいっしょになって悩み、考えて努力していく。生徒は教師から多くのことを学び、教師も様々なことを学ぶ。教育とは教師の人格と生徒の人格をお互いに磨き合うことかも知れない。

生徒と教師の磨き合う結晶が今回の優勝という大きな成果に結びついたのである。



第42回全国中学校柔道大会にて
左から金井先生・荻野・佐俣・五十嵐選手
右から真田先生・鈴木はるか選手